幾代会　６月観察会のまとめ

◆日時　２０２５年６月１日（日）
◆散策場所 小作駅～武蔵野公園～富士見公園～羽村駅　　（担当：平、太田）
◆集合　10 時５分、JR 小作駅　改札を出た所
◆参加者　梅田、越前（ランチのみ）、太田、斉藤、平、深川、宮野、池田（ゲスト）、須田（ゲスト）、中務（ゲスト）　計 10 名
◆ポイント 幾代会が樹木に名札を付けた羽村の公園を訪ねる
◆コース　JR 小作駅　➞　もみじ児童公園　➞　武蔵野公園　➞　栄緑地公園　➞　富士見公園➞　カクタスカフェ（昼食）　➞　まいまいず井戸　➞　羽村駅（14 時 40 分頃解散）

＜もみじ児童公園＞

もみじ児童公園には数本のイロハモミジが植栽されていて、若葉の中に赤く色づいたプロペラ（翼果）がたくさん見られた。プロペラの中には種子が入っていて、秋になるとくるくる回りながら遠くへ飛んでいき、子孫を増やしていく。

日本のモミジは 35 種類ほどあり、イロハモミジ、オオモミジ、ヤマモミジに大きく分けられる。

＜武蔵野公園＞

武蔵野公園では 2021 年 9 月から 1 年がかりで実施した樹木名板取り付け作業の経緯について説明した。2021 年 9 月、羽村市土木課公園管理係に許可を得て、公園内の樹木を調べ、樹木リストを作成することからスタート。市から提供された大中小の板に防腐剤を塗り、乾燥させた後、2022 年 1 月下旬から 2 月にかけて、東青梅市民センターの会議室で大・中・小の板に 1 枚 1 枚、樹木名を書き記した。

そして 3 月 22 日と 4 月 2 日に 26 種 60 枚の名札を、荒縄を使って取り付けた。この日は公園内を歩きながら、取り付けた名札を確認したが、約３年が経過して文字が薄くなったり、名札が取れてしまったりしたものもあった。

名札を付けた 26 種類の中から、コナラ、アカシデ、ネズミモチについて平さんが説明してくれた。翼のついた種子が房状にぶら下がっているアカシデの果穂（かすい）について興味を持った参加者が多かった。

＜富士見公園＞

富士見公園では 2022 年 4 月 29 日、5 月 3 日、28 日の 3 日間かけて取り付けた 51 種 180 枚の樹木名板を確認した。

その中からサンゴジュ、エノキ、プラタナスについて説明した。サンゴジュの名前の由来は珊瑚のような赤い実が付くこと。材や葉に水分を多く含み、燃やすと泡が噴き出るため、防火樹として庭木や生垣に用いられている。魚毒植物としても知られ、沖縄県ではかつて「毒流し漁」に利用されていた。

エノキは硬く、昔は鍬などの道具の柄として使われ、「柄の木」が転じてエノキと呼ばれるようになったという説も。野生のエノキタケはエノキの枯木や切り株に生えることから、その名が付いたという。

プラタナスの和名「スズカケノキ」は、多数ぶら下がる鈴のような実や花が、修験者が身に着ける鈴懸（すずかけ）に似ていることが名前の由来。葉の形が優美で、樹皮が剥がれると現れる斑紋に特徴がある。

＜幾代会が樹木名板を設置した他の場所＞

■羽村市内・・・けやき児童遊園　・田の上公園　・玉川コミュニティ広場　・禅林寺
■青梅市内・・・梅郷市民センター　・梅郷忠霊塔　・即清寺　・ロウバイ通り（西中脇）・吉野山園地　・柚木園地　・一の滝　・多摩川沿い

＜カクタスカフェ＞

石窯ピザのランチをいただいた後、屋上に上がってパッションフルーツガーデンを見学させていただいた。パッションフルーツは別名「クダモノトケイソウ」といわれる南国の果物。同カフェでは店の周りと屋上で多数栽培し、育て方の講習会も行っている。初夏に花が咲き、8月以降収穫できる。開花は1日のみで、その間に人の手で受粉させる。

カクタスカフェではシナノパープル、巨峰、シャインマスカットなどのブドウも栽培している。

＜まいまいず井戸（東京都指定史跡）＞

「まいまいず」とはカタツムリのこと。井戸に向かって降りる通路の形がらせん状に巡っていて、カタツムリに似ていたために名付けられた。鎌倉時代の創建と推定され、当時は縦に掘る井戸掘り技術が発達していなかったため、このような形態になった。すり鉢状のくぼ地の中央に、直径約1.2m、深さ約5.9mの掘り井戸がある。

＜参加者の感想（一部）＞

・たくさんの樹木に名札を付けることは大変な作業だと分かった。樹木を見る目が変わった。
・説明を聴かせていただき楽しかった。樹木について、いっぱい知りたくなった。
・植物は好きだが、樹木は紅葉や実がないとあまり見ない。名札が付いていると樹木にも興味が湧いてくる。
・説明を聞き、樹木にもいわれや背景があることが分かった。樹木の名前を知ることはその樹木について知る最初の一歩であると知った。

（太田記）